

議事概要

会議名称	第7回千代田区都市計画審議会都市計画マスタープラン改定検討部会 (社会基盤整備・市街地機能更新部会)
日 時	令和元年 11 月 28 日 (木) 10 : 00 ~ 11 : 45
場 所	千代田会館 10 階研修室
会議次第	1. 開会 2. 議題 (1) 分野別まちづくり等の素案検討について 3. その他 4. 閉会

<社会基盤整備・市街地機能更新部会での論点 まとめ>

■分野別まちづくりの目標と方針全体について

- 分野 1 から分野 7 まで論点が整理されてきて方針が出されており、今までの都市計画審議会や改定検討部会、公聴会等の意見が取り入れられ全体的にかなりまとまっているので、今後さらにブラッシュアップしていければよいのではないか。(小澤副部会長)
- 都市計画マスタープランは、区自らの取組み、民間事業者が担う部分とそのために区が行うべき環境整備についてのメッセージを示すものであり、各主体が連携して取り組んでいくための羅針盤となることを意識すべき。民間事業者に伝わるような内容となっているか確認が必要である。(中村(英)委員)

■「土地利用の基本方針」について

- 「強靱な都市基盤」は「スマートなまちづくり」と絡めた方がクリアになってよい。「スマートなまちづくり」は、まず、土地利用の基本方針の段階から打ち出した方がよい。(中村(英)委員)
- 都市機能の誘導をインセンティブとして考える場合、地方との連携、地方の文化振興・観光振興に資するような交流機能を盛り込めるとよい。(小澤副部会長)

【周辺区との連携の視点について】

- 丸の内と八重洲(中央区)、御茶ノ水と文京区側の高度な医療機関が集積している地域、飯田橋と神楽坂(新宿区)の3地域については隣接区とまちづくりの根底となる一定のイメージを共有したうえで、方針等の検討・取り組みを進めた方がよい。(小澤副部会長)

■「分野４ 道路・交通体系と快適な移動環境の整備」について

- 最適な移動のマネジメントを考えるブロックについて、こういった視点で設定しているのかが分かるとうい。（小澤副部会長）
- 「地下ネットワークの検討を進める」という視点が追加されるとよい。（小澤副部会長）
- 自動運転・モビリティ時代の取組みは方針から読み取れる。具体化は都市計画マスタープランの策定後でもよい。（小澤副部会長）
- 分野４の「道路・交通体系」は、交通に寄り過ぎている。移動だけではなくて広場的な道路空間・公共空間、半公共空間についての方針が追加されるとよい。（中村（英）委員）

■「分野６ 災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり」について

- 地下空間など、「災害危険性の高い場所」という表現は地震発生時や洪水発生時における違いなど配慮する必要がある。（中村（英）委員）
- 事前復興について明記されており、非常によいと思う。（小澤副部会長）
- 方針図の御茶ノ水駅周辺については、に文京区側の災害拠点病院も一体のエリアとして示せるとよい。（中村（英）委員）

■「分野７ 環境と調和したスマートなまちづくり」について

- 「多様な技術導入によるヒートアイランド対策の進化」の表現は、ミスト対策程度の実組みだけのようにとられてしまう可能性があるので変更した方がよい。ヒートアイランド対策は、「風のみち」等のパッシブ対策の方が環境インフラとしては重要である。ビルの廃熱対策も重要である。（小澤副部会長）
- 方針の中に「低炭素」の文言を入れた方がよい。（小澤副部会長）
- 方針図はあった方がよい。（小澤副部会長）

＜社会基盤整備・市街地機能更新部会 議事概要＞

議題（１）分野別まちづくり

■ 分野別まちづくりの目標と方針全体について

- 全般的にはかなりまとまっているので、これをさらにブラッシュアップしていければよいのではないかと。（小澤副部会長）
- 分野 1 から分野 7 まで論点が整理されてきて方針が出されている。今までの都市計画審議会や改定検討部会、公聴会等の意見が取り入れられ、まとまりつつある。本日は欠席の委員も多いので、それぞれの分野の専門の先生方の意見についてもヒアリング等をしていただきたい。（小澤副部会長）
- 全体のスタンスの確認をしたい。都市計画マスタープランでは様々なことを謳っていくものであるが、一つは区として取り組んでいくもの、もう一つは主として民間の事業者等に担ってもらうこととそのため区としてどういった環境整備をしていくかというメッセージを示すものとなる。各主体が連携して取り組んでいくための羅針盤となることを意識し、主として民間の事業者に伝わるような内容となっているかどうか、最後にみていかなければならない。
また、分野別まちづくりの目標と方針の出来上がりのイメージとしては、方針の下にいくつか取り組みの方向性がぶら下がっていく形となるということによいか。（中村（英）委員）
⇒出来上がりはそういうイメージである。（事務局）

■「土地利用の基本方針」について

- 「基本方針 6 次世代のまちを支える高度な都市基盤を誘導していきます」について、おそらく「都市基盤」という言葉が先に出てきたものであり、これから考えていく部分もあるのだろう。事務局の説明にもあったように、これからの都市を支えるスマートなシステム、或いはハード面を制御するシステム等を指しているのかもしれないが、ここでいう「都市基盤」が何を指しているのかがクリアになるとよい。言葉が古いのでクリアでないように感じるのかもしれない。「スマートな」ということと絡め、土地利用の基本方針で打ち出していくと、方向性も見え、分かりやすくなる。（中村（英）委員）

- 「高度機能創造・連携拠点」は東京都で位置づけているものか。どんなイメージで使われているのか。新しい言葉、概念なのか。「機能創造」という言葉に意味を込めて、区として打ち出したものか。（小澤副部長）
 - ⇒東京都の都市づくりのランドデザインに則しつつ区として意味づけをしている。今ある高度な都市機能を踏まえながらも、更に新しいものが生まれていくであろう拠点である。都市づくりのランドデザインの中では、いわゆる中枢広域拠点というスペックに着目した意味での拠点としての位置づけがされている。そこに更に区として意味づけをしている。例えば、大丸有地区であれば国際ビジネス、有楽町であれば文化等である。（事務局）

- 東京 23 区・特別区長会において、地方創生を支援するという全国連携プロジェクトという取り組みがある。また、地方の様々な自治体が東京にアンテナショップを出しており、地方の振興を助ける場、情報発信の場としても都心は重要な場である。都市機能の誘導をインセンティブとして考える際に、地方連携についての取り組みを考えた方がよい。千代田区として文化振興・観光振興に資するような場をつくることも考えた方がよい。（小澤副部長）
 - ⇒中央区は最近住宅の割り増しではなく、交流機能に対しては容積を割り増しをするという見直しを行った。千代田区も今後一定程度住宅が増える中で、交流機能が重要なものであり、地方創生に資するような交流機能といったことを例示しておく、交流機能のあり方として推奨していくということも着地点としてはあるかと思う。（事務局）

- 京橋エドグランに中央区観光情報センターがあり、中央区だけでなく 23 区の情報発信や地方のイベントも実施している。おそらく容積率のインセンティブとして作ったもので、都市開発プロジェクトで創出されたスペースを中央区が運用しているのだろう。中身は交流機能に近い。今後の土地利用の基本方針のインセンティブの要素に関する意見として聞いておいてほしい。（小澤副部長）

【周辺区との連携の視点について】

- 土地利用方針図について、交通結節点となっている御茶ノ水について、文京区との連携を考えていく必要がある。文京区側には各種の高度な医療機関が集積しており、千代田区には大学や医療施設がある。大規模災害発生時等の危機的な状況において、高度な連携機能が確立されているのか。ビジネス・コンティニュイティ・プラン、ディストリクト・コンティニュイティ・プラン、エリア・コンティニュイティ・プランという視点があるが、高度機能創造・連携拠点にはそういった視点が入った方がよいと感じている。区界のところで一体的に考え、一体的に機能するようにした方がよいところがある。その部分をどのように表していくか。

隣接区と一体的な共通認識でプランをつくって、具体的に地区計画や開発諸制度をどう使うかについては、それぞれの区が行うだろうが、根底となる考え方はまちづくりとして一体的に持っていた方がよい。区と区で連携し、一定のイメージを持ったうえで、都市計画マスタープランに反映するという事も検討していただきたい。

いずれにしても、千代田区内だけを閉じて考えていくのではなく、街は一体的に機能しているので連携したイメージづくりをした上で取り組むということが可能であればしていただきたい。東京駅の丸の内と八重洲、地下街の問題も起こっている。御茶ノ水と文京区側の医療機関が集積している地域、飯田橋と神楽坂の3地域くらいは方針をどうするかについて考えていた方がよい。（小澤副部長）

⇒都市計画審議会でも周辺区との連携が重要であるという指摘があった。都市骨格軸の矢印の方向性を含め、隣接区とは調整させていただく。開発につながるような拠点の扱いについては難しい部分があるので、分野別の中で境界の連続性といった形で調整していきたい。（事務局）

■「分野4 道路・交通体系と快適な移動環境の整備」について

- これから大事になってくるであろう「街中の広場的な公共空間の創出」という内容がどこにも入っていない。分野2は緑と水辺で括られており、公共空間という意味では道路がかなりの部分を担い、道路沿道の民間の空地と一体となっているところがある。分野4の「道路・交通体系」は、移動だけではなくて広場的な道路空間・公共空間、半公共空間のようなところが追加されてもよい。たたき台では、少し交通に寄り過ぎているように感じる。（中村（英）委員）
- 「方針3 まちやひと、都市活動の特性・課題に応じたブロックごとの最適な移動をマネジメントしていきます」について、「ブロック」という考え方が示されている。この17のブロック割は、この分野に限ったものか。他分野にも共通するブロックなのか。また、都市計画マスタープラン後の課題としてもよいが、ブロックをどういった視点で設定しているのかが分かるとよい。（小澤副部長）

⇒基本的には幹線道路を中心としたブロックを意識しながらそこにどういった拠点としての機能があるのかということを掛け合わせている。小学校区などではなく、道路に着目したブロック割である。ブロックを具体化していくことについては、今後、様々議論があるだろうと考えている。（事務局）

- 方針図について、凡例として「地下鉄駅とまちをつなぐ通路等」とあるが、これは現況を書いているのか。建設省時代に、地下ネットワークに関する計画の策定が検討された。そのアウトプットのの一つとして、東京駅や新宿駅などのいくつかの拠点駅において、公民連携による地下ネットワークの策定という話があった。千代田区内では東京駅以外の地下ネットワークの将来像をどう考えるか、地区によってはそういった検討をしていく必要がある。方針図の中で線として明示することが難しければ、「地下ネットワークの検討を進める」というようなことが方針のどこかで文言で表現できるとよい。（小澤副部長）
- 自動運転、モビリティ時代の取組みについて、「方針 3 まちやひと、都市活動の特性・課題に応じたブロックごとの最適な移動をマネジメントしていきます」と「方針 4 まちの交通需要の変化や移動マネジメントの戦略に応じて、ひとの目線から道路空間の創造的な再編・活用を進めていきます」として入っているのでそこから読める。具体化に向けては都市計画マスタープランがまとまった後の話だろう。（小澤副部長）

■「分野 6 災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり」について

- 「方針 3 地下街など都心の災害危険性の高い場所のリスク低減対策、まちなかの避難等を阻害する要因の解消を進めていきます」について、「災害危険性の高い場所」という表現はハレーションを生みそうなので配慮が必要である。閉鎖的空間等において、何らかの制約がある場所についてリスクを低減する必要があるということか。

⇒地下街の危険性に関しては、震災に対しては安全である一方で、水害に対しては危険だということもあるため、包括的に危険なところと捉えられるとミスリードになる。震災やミサイル攻撃に対しては地下街が安全な場所となるので、その辺りの記載の仕方を工夫したい。（事務局）
- 千代田区における水害に対するリスク想定はどうなっているのか。（中村（英）委員）

⇒一般的な市街地の浸水ということでは、この 20 年くらいで減ってきている。ただ、その想定をさらに超えて、荒川や利根川が決壊した場合に、水が地下鉄を通して千代田区に到達し、地下、地上に被害を及ぼす可能性が大きく指摘されているリスクである。（事務局）
- ゲリラ豪雨による内水氾濫についてのリスクはどうか。（中村（英）委員）

⇒絶対的安全性ということでは、確かに課題となりえるが、この 20 年間の動向を見ると、都の下

水道局の頑張りもあり、浸水履歴マップなどを見ても最近はほとんど発生していない。議会等では、荒川上流（北区）で決壊した場合についての地下街浸水について指摘されている。
（事務局）

- 分野 6 については事前復興について明記されており、非常によいと思う。被害想定についてもどこかに書かれているか。（小澤副部会長）
⇒方針 5 の強化するポイントの中に「大規模災害のきめ細かな被害想定に基づく」と記述している。（事務局）
- 方針図の御茶ノ水駅周辺に災害拠点病院が凡例で示されているが、文京区側も示してよいのではないか。（中村（英）委員）
- 方針となると周辺区との協議・調整が必要だが、現状の事実をプロットする分には問題ないのではないか。（小澤副部会長）

■「分野 7 環境と調和したスマートなまちづくり」について

- 「方針 1 四季の変化を楽しませ、清潔で過ごしやすい都心の環境を守り、育てていきます」の強化するポイントに「多様な技術導入によるヒートアイランド対策の進化」とあるが、「多様な技術導入による」とあることでミスト対策程度のことだけととられてしまう可能性があるので変更した方がよい。
ミスト対策は付随的なものであり、従来からのヒートアイランド対策は、「風のみち」等のパッシブ対策の方が環境インフラとしては重要である。また、ヒートアイランド対策ということでは、ビルの廃熱対策も重要である。（小澤副部会長）
- 「方針 3 都心の資源循環・環境負荷低減のしくみを確立していきます」の柱立てについて、方針の中に「脱炭素、低炭素」ということを入れるべきか。また、方針図で示すことを検討した方がよいか。（事務局）
⇒「低炭素」は入った方がよい。方針図もあった方がよい。（小澤副部会長）

■その他について

- 本日は意見聴取結果も踏まえご議論いただいた。12 月 10 日（火）に開催予定の都市計画審議会では意見聴取に対する都市計画審議会としての回答も含めてご議論いただく予定である。それ以降に公表していきたいと考えている。次回の部会の日程は未定であるが、地域別の検討にも入っていくので分かりやすい資料を心がけたい。
○その他の連絡事項は特になし。

以上